

講座1 復興の思想 6月20日(土) 13:30~14:30

3.11から学ぶ人間的復興と感染症問題



沢田 康次

東北工業大学 元学長・名誉教授
専門：複雑系科学

講座概要 2011年3月11日から約10年を迎える今年、被災者に心からご冥福をお祈りし、この間の復興事業が何を成し遂げ、何ができなかったかを考える時でもある。復興の主役である被災者が災害時に長期的な考えを持つのは難しいので、自分の街を自分の好むように復興するためには、普段から自分たちの街の復興計画を持っていなければならないことになる。世界的流行を見せる感染症が、如何に社会を分断し人間的復興を妨げるか。

講座2 復興の生活構築学 6月20日(土) 14:45~15:45

工芸産地の生業再生

一雄勝硯生産販売協同組合の再生を事例として一



菊地 良覺

東北工業大学 ライフデザイン学部 生活デザイン学科 教授
専門：地域デザイン、スペースデザイン

講座概要 日本を代表する工業デザイナーの秋岡芳夫が東北工業大学に着任し、1979年から工芸産地の実践的地域デザインを提唱してきた。国指定の雄勝硯も地域デザインの一つであるが、東日本大震災にて人的・物的面の甚大な被害を受け、再生に向けた「おがついしのわプロジェクト」を立ち上げ、今日に至っている。再生のための活動と今後の課題解決の内容等を詳述する。

講座3 復興の科学技術 6月27日(土) 13:30~14:30

津波の発生と被害のメカニズム



今村 文彦

東北大学 災害科学国際研究所 災害リスク研究部門 所長・教授
専門：水工水理学、自然災害科学

講座概要 海底地震などにより生じる津波の発生から伝播および遡上に至るメカニズムを紹介し、東日本大震災を含む過去の津波災害における被害の特徴と分類、そして発生および拡大過程のメカニズムについて説明する。さらに、今後、被害を予防および低減する対策について議論を行う。

講座4 復興の科学技術 6月27日(土) 14:45~15:45

東日本大震災後の災害科学分野の発展と課題



今村 文彦

東北大学 災害科学国際研究所 災害リスク研究部門 所長・教授
専門：水工水理学、自然災害科学

講座概要 東日本大震災の被害実態および教訓整理の研究活動を紹介し、研究成果に基づく災害科学の深化と実践的防災学の展開を紹介したい。特に、数値シミュレーションで再現された巨大津波の実態を見て頂き、なぜあれだけの大災害が生じたのか？その上で、我々は今後何が出来るのかを考えていきたい。

講座5 復興の生活構築学 7月4日(土) 13:30~14:30

311を伝え継ぐために～被災地・被災者とは何か



武田 真一

宮城教育大学 防災教育研修機構 特任教授

講座概要 東日本大震災からまもなく10年。復旧復興が最終段階に入り、被災の痕跡が消えつつあるいま、私たちはどんな視点を再確認すべきか。「震災を忘れない」とは何のため、誰のためなのか。災害犠牲と混乱が繰り返される社会にあって、震災を伝え継ぐ取り組み、伝承活動の意義を考える。

講座6 復興の社会学 7月4日(土) 14:45~15:45

地域教育の新しい可能性—宮城県気仙沼の取り組みから



矢部 寛明

東北芸術工科大学 デザイン工学部 コミュニティデザイン学科 講師
専門：コミュニティデザイン、社会教育

講座概要 限られた資源を活用し、どのように地域を活性させることが可能なのか？頭を悩ます自治体も多い。そのような背景の中、気仙沼市である取り組みが震災後より行われてきた。今では気仙沼市とも連携をして活動を実施。多くの自治体が見学に訪れる。

講座7 復興の科学技術 7月18日(土) 13:30~14:30

東北地方太平洋沖地震の科学(1)



日野 亮太

東北大学 大学院理学研究科・理学部 附属地震・噴火予知研究観測センター 教授
専門：地震学、海底地震学・測地学

講座概要 2011年東北地方太平洋沖地震の震源直上の海底調査観測でみえてきた、東北日本で発生する超巨大地震・津波発生のメカニズムを概説します。

講座8 復興の科学技術 7月18日(土) 14:45~15:45

東北地方太平洋沖地震の科学(2)



日野 亮太

東北大学 大学院理学研究科・理学部 附属地震・噴火予知研究観測センター 教授
専門：地震学、海底地震学・測地学

講座概要 2011年東北地方太平洋沖地震のような地震は過去にどのように発生したのか。2011年の地震後に日本海溝で起こっていることとあわせることでわかってきたことを紹介します。

講座9 復興の社会学 8月1日(土) 13:30~14:30

地域防災のための地理情報活用



小田 隆史

宮城教育大学 防災教育研修機構 副機構長・准教授
専門：防災、自然災害科学、地理学、海外地域研究

講座概要 近年、東日本大震災の経験・教訓を伝承するアーカイブをはじめ、全国の地域毎の災害リスクを知るために役立つ豊富な情報がウェブ上で公開されています。本講座では、特にハザードマップや過去の災害履歴などの地理的情報をウェブ上で入手する方法を学び、それぞれの特徴や地域防災における活用法を提示します。

講座10 復興の社会学 8月1日(土) 14:45~15:45

津波避難における自動車と道路の使い方を考える



奥村 誠

東北大学 災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門 教授
専門：交通工学、国土計画

講座概要 東日本大震災ではかなり内陸部まで津波が襲来し、徒歩では避難が間に合わない地域があることがわかりました。一方で、日中は地域外で仕事を持つ人が多い沿岸部の集落では、避難者数に比べて十分な自動車や運転者が足りない危険性もあります。本講では、地域の自動車と道路を最大限活用した避難の方法について考えます。

講座11 復興の社会学 8月1日(土) 16:00~17:00

災害後の人口の転出入とその特徴



奥村 誠

東北大学 災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門 教授
専門：交通工学、国土計画

講座概要 自然災害は、災害死による自然減をもたらしますが、実はその数十倍の人口移動を引き起こします。それは必ずしも転出とは限らず、復興事業に関連した労働力の流入である場合もあります。本講では最近40年間の都道府県別の転出入に災害が及ぼした影響の分析結果を紹介します。

講座12 復興の科学技術 8月29日(土) 13:30~14:30

構造ヘルスマニタリングシステムの役割と実証について



薛 松濤

東北工業大学 工学部 建築学科 教授
専門：耐震工学、構造工学、基礎工学

講座概要 大地震の後、身の安全が確保できたら、建築物(家とオフィス)にそのままいられるかどうか、そして外に逃げた場合は戻れるかどうかをまず考えると思います。人間の手による検査で安全性を調べる手もあるが時間がかかりすぎます。その時に迅速かつ確実に判定してくれるのは構造ヘルスマニタリングシステムです。本講座は、東北工業大学10号館に設置している関東以外唯一のシステムについてその仕組みを概説し、経験した数々の地震時の作動状況、役割について解説します。

講座 13 復興の科学技術 8月29日(土) 14:45~15:45

平時から向き合う災害廃棄物処理



講座概要 頻繁に起こる災害に対して、復旧・復興にはまず発生する廃棄物処理が重要となる。本講義では、この廃棄物処理を迅速かつ適正に処理するための対応と、平時からの廃棄物処理がどのように関わるかを、これまでの災害を例に紹介し、考えていく。

吉岡 敏明

東北大学 大学院環境科学研究科 教授
専門：リサイクル工学、環境関連化学、無機化学

講座 14 復興の科学技術 8月29日(土) 16:00~17:00

プラスチック問題を考える



講座概要 プラスチックのリサイクルは、従来から課題となっていたが、近年はマイクロプラスチック等さらに大きな環境問題となっている。本講義では、プラスチックに関する今の姿と将来あるべき姿について解説する。

吉岡 敏明

東北大学 大学院環境科学研究科 教授
専門：リサイクル工学、環境関連化学、無機化学

講座 15 復興の社会学 9月5日(土) 13:30~14:30

東日本大震災の復興を考える



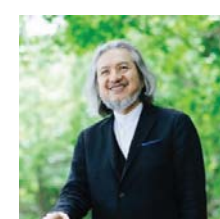
講座概要 東日本大震災は、日本社会にとって最大の被害を及ぼした災害であった。そのため、復興資金も、過去にない規模の復興予算が生まれ、復興事業がすすめられた。ここでは、その復興事業全体を俯瞰しながら、復興の到達点を検討する。この検討を通して、復興事業のどんな点に問題があったのかを検討する。

田中 重好

尚絅学院大学 特任教授
専門：地域社会学、災害社会学

講座 16 復興の生活構築学 9月5日(土) 14:45~15:45

コミュニティ創成に向けた社会改革事業の在り方



講座概要 2011年3月、東北や関東沿岸地域に甚大な被害をもたらした東日本大震災から9年。我々は「コミュニティ」の重要性を再認識することとなり、コミュニティの創成が大きな課題となっている。本講義では、東松島市における「森の学校プロジェクト」をテーマとして、これからの社会改革事業の在り方について学んでいく。

風見 正三

宮城大学 事業構想学部 教授・理事兼副学長
専門：地域計画、コミュニティビジネス、ソーシャルビジネス

講座 17 復興の生活構築学 9月19日(土) 13:30~14:30

三陸地方のくらしのかたち

—変わるものと変わらないもの—



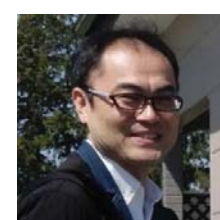
講座概要 時を重ねた美しい農山漁村。民家史から集落計画まで、その学術的総括は次代への起点として重要です。しかし当地方は、それが未達なままに大震災を受け、昭和的な重厚長大型の復興事業を経て、コロナ禍に突入しました。くらしのかたち、変わるものと変わらないものについて、建築・生活デザインの視点から考えます。

大沼 正寛

東北工業大学 ライフデザイン学部 生活デザイン学科 教授
専門：建築設計、地域計画、建築歴史地理

講座 18 復興の生活構築学 9月19日(土) 14:45~15:45

生業景—くらしのかたちのリ・デザイン—



講座概要 復興の生活構築は、都市基盤や雇用を与えられるだけでなく、主体的・自律的でありたい。厳しくも豊かな自然と向きあい、資源を活かして価値を生み出す地技(じわざ)は、くらしのかたちをつくる一つの根拠となります。現代の生業を再構築し、地域固有の景に結びつける「生業景デザイン」の可能性について考えます。

大沼 正寛

東北工業大学 ライフデザイン学部 生活デザイン学科 教授
専門：建築設計、地域計画、建築歴史地理

講座 19 復興の生活構築学 9月19日(土) 16:00~17:00

復興大学で考える【伝承】とは

復興大学
事務局

講座概要 私達の考える「伝承」とは何か、持続可能な暮らしや産業の形を背景に、自分たちにできること(例えば、身の丈論と・・・理想など)、未来に伝えたいこと、3.11からの10年を振り返りつつ、復興大学から未来への提言として、何か発信できる機会を持ちたいと思います。

皆さまとの意見交換も予定しております。

東北工業大学 復興大学事務局

講座 20 復興の生活構築学 9月26日(土) 13:30~14:30

復興キュレーション
ーミュージアム思考からの復興まちづくりー



加藤 幸治

武蔵野美術大学 教養文化・学芸員課程 教授
専門：民俗学、博物館学

講座概要 東日本大震災では博物館コレクションが被災し、文化財レスキューが実施された。救援資料は過去・現在・未来をつなぐ資源となるが、地域文化の復興に活かすためには住民を巻き込んだミュージアム活動が不可欠であった。牡鹿半島での活動を例に、文化面からまちづくりに貢献する復興キュレーションの意義について共有したい。

講座 21 復興の経済学 9月26日(土) 14:45~15:45

どこまで進んでいるの？津波被災地の農業・農村復興



伊藤 房雄

東北大学 大学院農学研究科・農学部 教授
専門：農業経済学

講座概要 3.11大震災発災直後、沿岸部の津波被災地では「10年後の日本の農業・農村の姿がそこにある」と言われた。農業を担う人たちが激減していることの比喩である。津波被災地では現在100haを超える大規模農業経営が展開しているが、本講義では、農業・農村復興がどのように進められているのか、そこではどのような課題を抱えているのか、等々について最新の情報をもとに解説し、受講生と議論する。

講座 22 復興の経済学 9月26日(土) 16:00~17:00

東日本大震災後の宮城県内都市の経済活動
ー域内生産とエネルギーを中心にー



小祝 慶紀

東北工業大学 ライフデザイン学部 経営コミュニケーション学科 教授
専門：環境経済学、法と経済学、環境政策学

講座概要 東日本大震災後の宮城県内の都市(仙台市、石巻市、気仙沼市)の域内経済の現状を概観するとともに、当該地域のエネルギー循環について解説します。前半は、当該地域の経済状況について、地域GDP(生産・分配・消費)を資料として解説します。後半は当該地域のエネルギー消費を主に、資料を基に解説します。

講座 23 復興の社会学 10月10日(土) 13:30~14:30

幽霊や夢と死者への向き合い



金菱 清

関西学院大学 社会学部 教授
専門：災害社会学、環境社会学

講座概要 東日本大震災の被災地での幽霊は死者と生者の邂逅の場として何を提供しうるのか。さらに、東日本大震災における遺族のみる夢を事例に、なぜあわいの世界では時間が遡行するのかを明らかにする。このことで、社会的事象を圧倒的に規定する条件を変更する力についての経験的データの意味をみなさんと考えてみたい。

講座 24 復興の科学技術 10月10日(土) 14:45~15:45

活断層と内陸地震の科学



遠田 晋次

東北大学 災害科学国際研究所 災害理学研究部門 教授
専門：地震地質、活断層研究、地震学

講座概要 地震と断層に関する基本的な知識の習得とともに、地震予測や災害軽減につながる地質学・地球物理学の学際領域の役割と重要性を理解する。まず、海溝型地震と内陸地震のメカニズムや災害面での違いを解説し、日本列島に2000以上存在する内陸大地震の震源である活断層を見いだす方法、地震規模予測について説明する。

講座 25 復興の科学技術 10月10日(土) 16:00~17:00

連鎖する大地震と地震ハザードの時間変化



遠田 晋次

東北大学 災害科学国際研究所 災害理学研究部門 教授
専門：地震地質、活断層研究、地震学

講座概要 応力伝播現象としての大地震の連鎖現象を事例と数値モデルで説明し、時空間的に群れる性質のある地震発生への理解を深める。さらに、前震・本震・余震、さらに誘発地震、静穏化など、時間変化する地震ハザードについて概説しつつ、簡単な演習を通じて地震活動の集団としての性質を理解する。

講座 26 復興の経済学 10月17日(土) 13:30~14:30

震災復興から生まれたさまざまな観光交流のカタチ



宮原 育子

宮城学院女子大学 現代ビジネス学部 現代ビジネス学科 教授
専門：地理学、観光学

講座概要 東日本大震災は、東北の観光にも大きな被害をもたらしました。地域では、生活再建とともに観光の復興にもまい進してきました。本講座では、主に宮城県や仙台市の行政機関が被災した沿岸部で進めている集客交流施設や宿泊施設などの観光インフラ復興の取組み事例を紹介していきます。

講座 27 復興の政治学 10月17日(土) 14:45~15:45

震災で啓かれた力とそれを育てる新しい社会の器



和田 正春

東北学院大学 教養学部 地域構想学科 教授
専門：マーケティング、サービス・マネジメント、プロジェクト・マネジメント

講座概要 震災復興の過程で新しい力が育まれている。その力を育み、次代をにらんだ社会のための力としていくために、我々はどのような取組をすべきか。理念を形にしていくことが求められる時代。それを可能にするのは地域内のマネジメント力の醸成。トライアンドエラーを容認する優れた実験場を創っていこう。そしてそれを楽しもう。

講座 28 復興の政治学 10月31日(土) 13:30~14:30

緊急事態対策および復興政策の背景に存在する根本的な考え方



井上 義比古

東北学院大学 法学部法律学科 教授
専門：政治学

講座概要 大規模災害による被害を少なくし早く復興する対策・政策を立案・決定・実施する過程において見られる「対立」「混乱」は、責任主体の不手際あるいは無能に原因があるとされることが多いようです。しかし、根本的な考え方の違いに基づいていることも多いのです。どのような政策にどのような考え方の違いが現れるかについて、分かりやすく分析します。

講座 29 復興の思想 10月31日(土) 14:45~15:45

災害と人間の心理



邑本 俊亮

東北大学 災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門 教授
専門：実験心理学、教育心理学

講座概要 災害に対して、私たち人間はどのような心理状態になるのでしょうか。本講義では、まず災害時に人間は本当にパニックになるのかどうかについて検討します。次に、災害の発生が予想される時にどのような心理が働くのかについて解説します。そして、緊急時の心理や行動の特徴を整理し、被災後の人間の心理についてもお話しします。

講座 30 復興の思想 10月31日(土) 16:00~17:00

将来へ備える～私たち一人一人ができること～



邑本 俊亮

東北大学 災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門 教授
専門：実験心理学、教育心理学

講座概要 東日本大震災を経験した私たちは、将来のために何ができるのでしょうか。私たち一人一人ができること、それは「知ること、育むこと、忘れないこと」だと思います。災害のことや人間の心理を知り、災害に備え災害を生き抜くための心身を育み、震災の記憶を風化させない。本講義は、そのことをあらためて確認する時間にしたいと思います。